

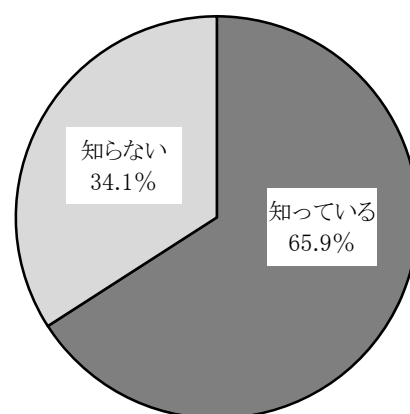
自転車損害保険等の加入

問 35 自転車損害保険等の加入認知度

愛媛県では条例を一部改正し、令和2年4月から自転車利用者は、自転車事故の賠償責任に備える保険（以下「自転車保険等」という）に加入しなければならなくなりましたが、あなたは、このことをご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

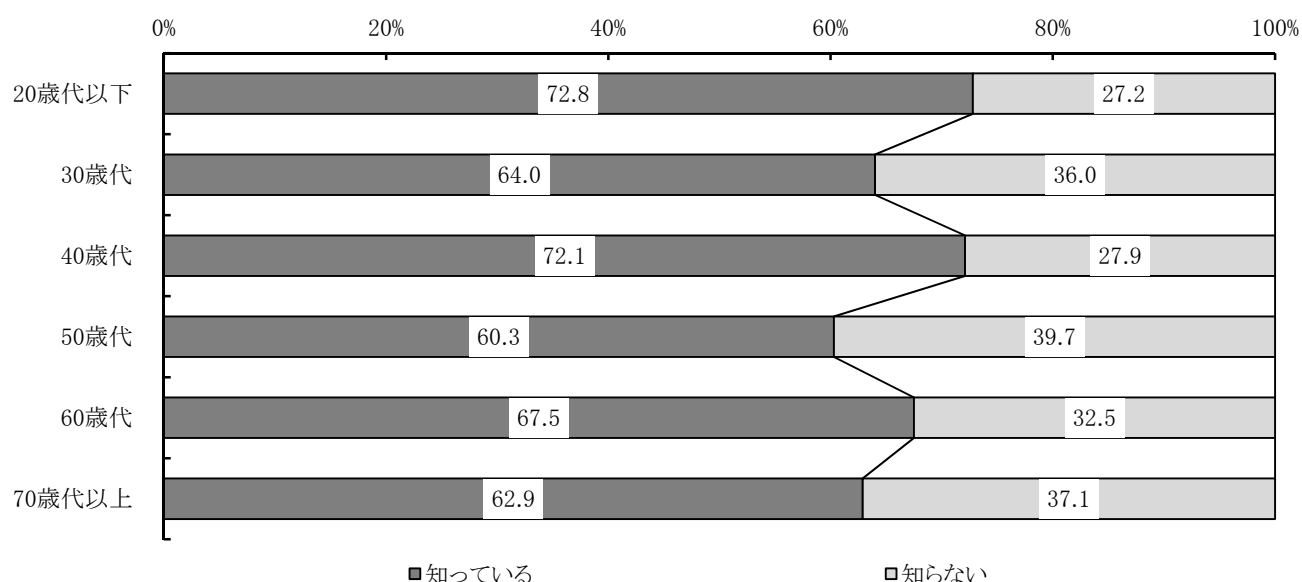
	(%)
1 知っている	65.9
2 知らない	34.1

自転車損害保険等加入義務について聞いたところ、「知っている」と答えた人の割合は65.9%、「知らない」と答えた人の割合34.1%となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「知っている」と答えた人の割合が多く、中でも、20歳代以下では72.8%と最も多く、50歳代では60.3%と最も少なくなっている。



問 36 この1年間での自転車利用経験

あなたは、この1年間、自転車を利用したことがありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

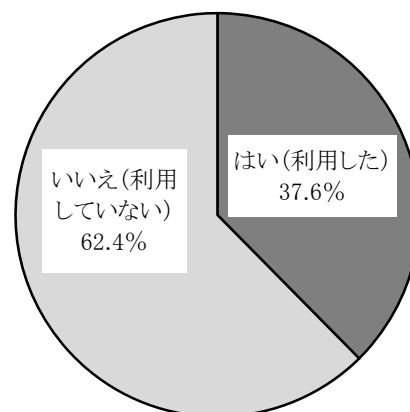
	(%)
1 はい (利用した)	37.6
2 いいえ (利用していない)	62.4

あなたは、その自転車の利用に関して、自転車保険等へ加入していますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

《自転車損害保険等の加入》

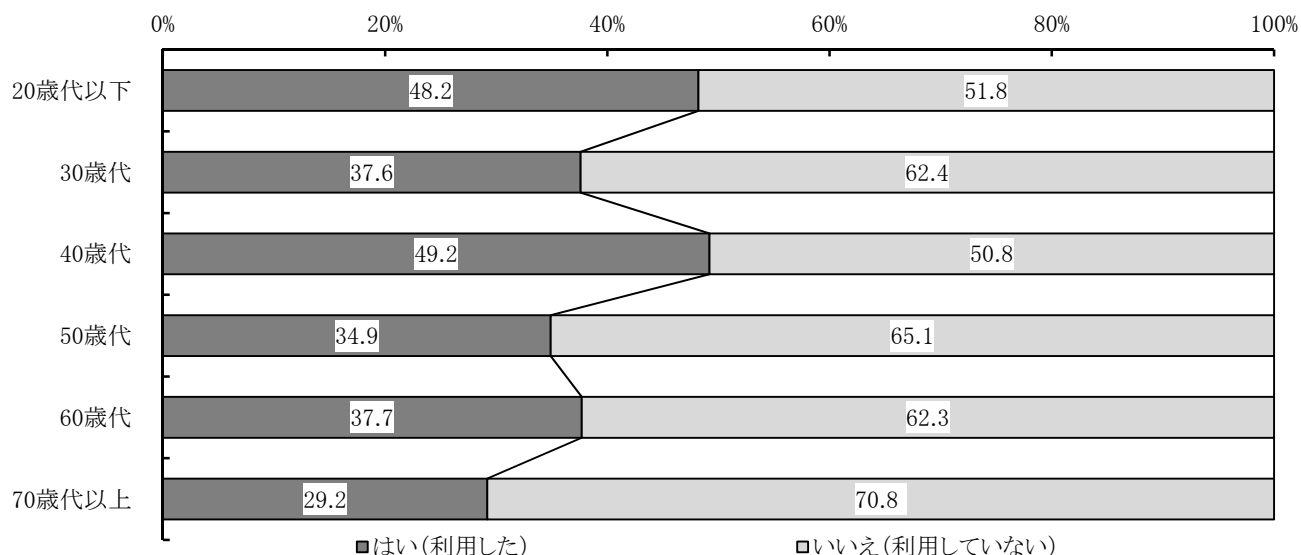
	(回答者=453人)	(%)
1 自転車保険等への加入義務化に関係なく加入している (または、保険に加入している自転車を利用している)	46.1	
2 加入義務化をきっかけに加入した	11.3	
3 自転車保険等に加入しているかどうか、わからない	14.1	
4 自転車保険等に入っていない	26.5	
5 その他	2.0	

この1年間での自転車利用経験について聞いたところ、「いいえ (利用していない)」と答えた人の割合は62.4%で、「はい (利用した)」と答えた人の割合は37.6%となっている。



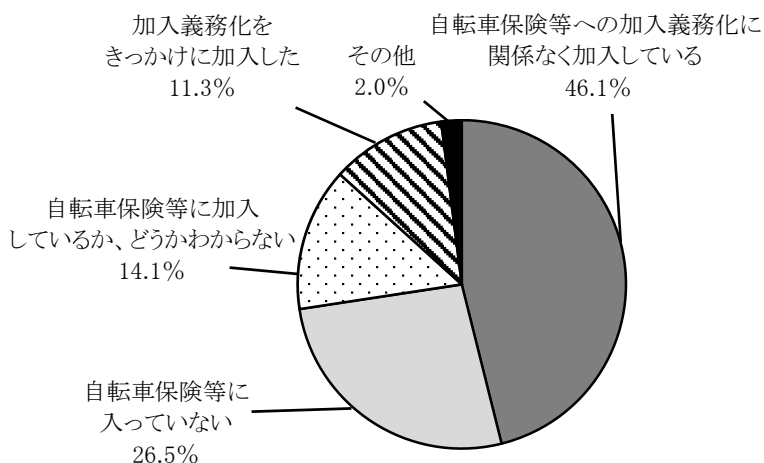
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「いいえ (利用していない)」と答えた人の割合が多くなっている。また、「はい (利用した)」と答えた人の割合は、40歳代で49.2%と最も多く、次いで20歳代以下 (48.2%) となっており、70歳代以上では29.2%と最も少なくなっている。



《自転車損害保険等の加入》

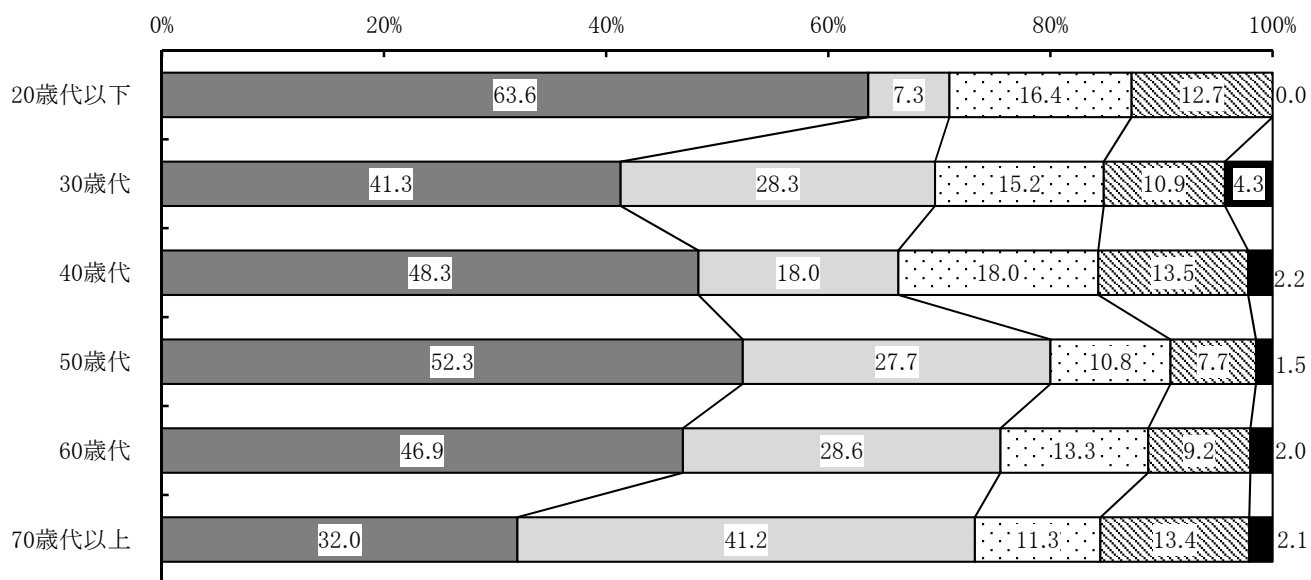
自転車損害保険等加入について聞いたところ、「自転車保険等への加入義務化に関係なく加入している（または、保険に加入している自転車を利用している）」と答えた人の割合が46.1%で最も多く、以下「自転車保険等に入っていない」（26.5%）、「自転車保険等に入っているかどうか、わからない」（14.1%）などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳代以上を除く全ての年齢層で、「自転車保険等への加入義務化に関係なく加入している（または、保険に加入している自転車を利用している）」と答えた人の割合が最も多く、70歳代以上では、「自転車保険等に入っていない」が最も多くなっている。

また、「自転車保険等への加入義務化に関係なく加入している（または、保険に加入している自転車を利用している）」は、20歳代以下（63.6%）で、他の年齢層と比較して多くなっている。



- 自転車保険等への加入義務化に関係なく加入している
- 自転車保険等に入っていない
- 自転車保険等に入っているかどうかわからない
- ▨ 加入義務化をきっかけに加入した
- その他

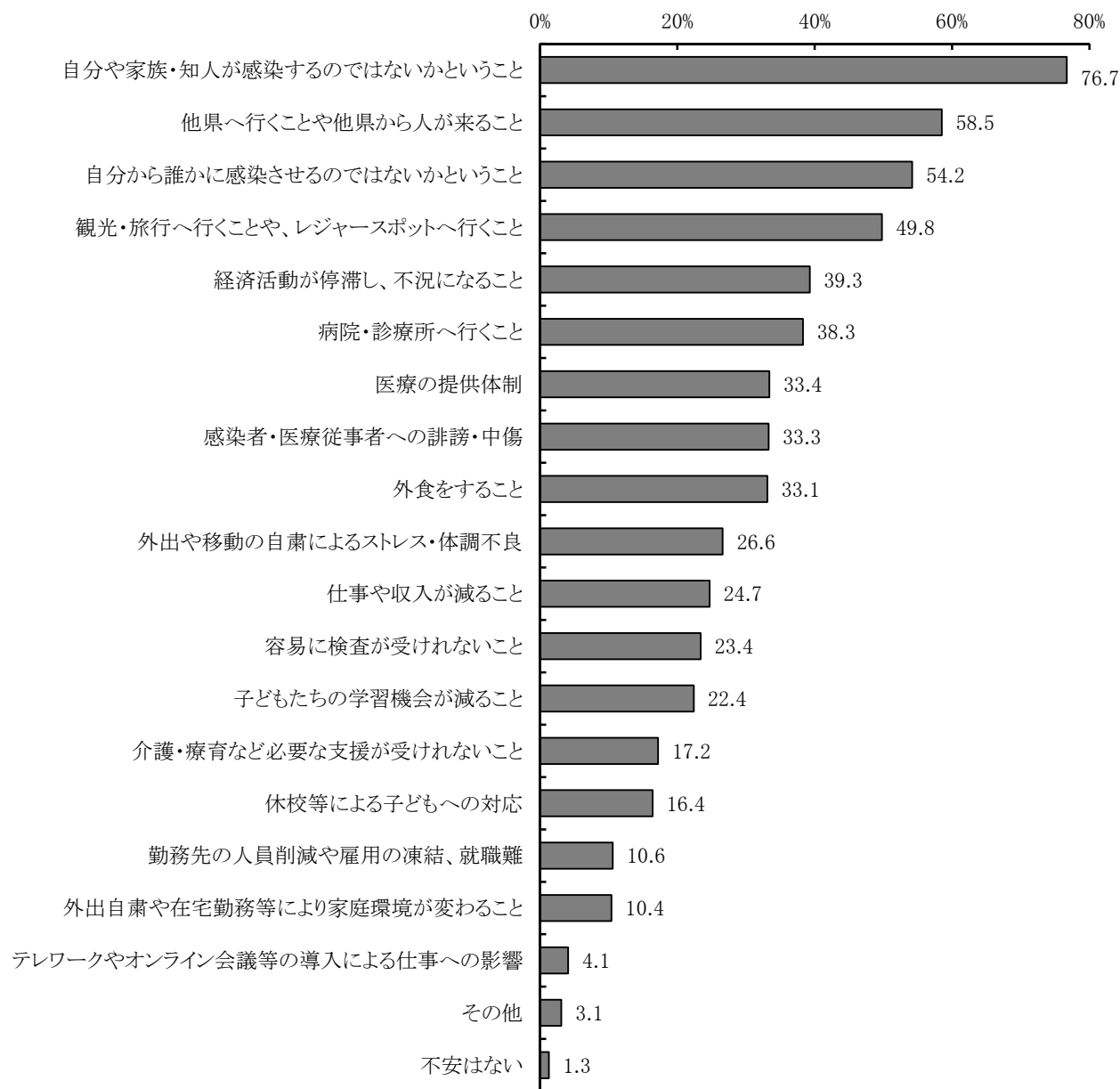
新型コロナウイルス感染症

問 37 新型コロナウイルス感染症の影響

あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響について、どのようなことに不安を感じていますか。次の中から当てはまるものを全て選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1	自分や家族・知人が感染するのではないかということ	76.7
2	自分から誰かに感染させるのではないかということ	54.2
3	感染者・医療従事者への誹謗・中傷	33.3
4	容易に検査が受けられないこと	23.4
5	外食をすること	33.1
6	観光・旅行へ行くことや、レジャースポットへ行くこと	49.8
7	他県へ行くことや他県から人が来ること	58.5
8	外出や移動の自粛によるストレス・体調不良	26.6
9	仕事や収入が減ること	24.7
10	経済活動が停滞し、不況になること	39.3
11	勤務先の人員削減や雇用の凍結、就職難	10.6
12	子どもたちの学習機会が減ること	22.4
13	休校等による子どもへの対応	16.4
14	外出自粛や在宅勤務等により家庭環境が変わること	10.4
15	テレワークやオンライン会議等の導入による仕事への影響	4.1
16	医療の提供体制	33.4
17	介護・療育など必要な支援が受けられないこと	17.2
18	病院・診療所へ行くこと	38.3
19	その他	3.1
20	不安はない	1.3

新型コロナウイルス感染症の影響について、どのようなことに不安を感じているか聞いたところ、「自分や家族・知人が感染するのではないかということ」と答えた人の割合が76.7%で最も多く、以下「他県へ行くことや他県から人が来ること」(58.5%)、「自分から誰かに感染させるのではないかということ」(54.2%)、「観光・旅行へ行くことや、レジャースポットへ行くこと」(49.8%)などの順となっている。

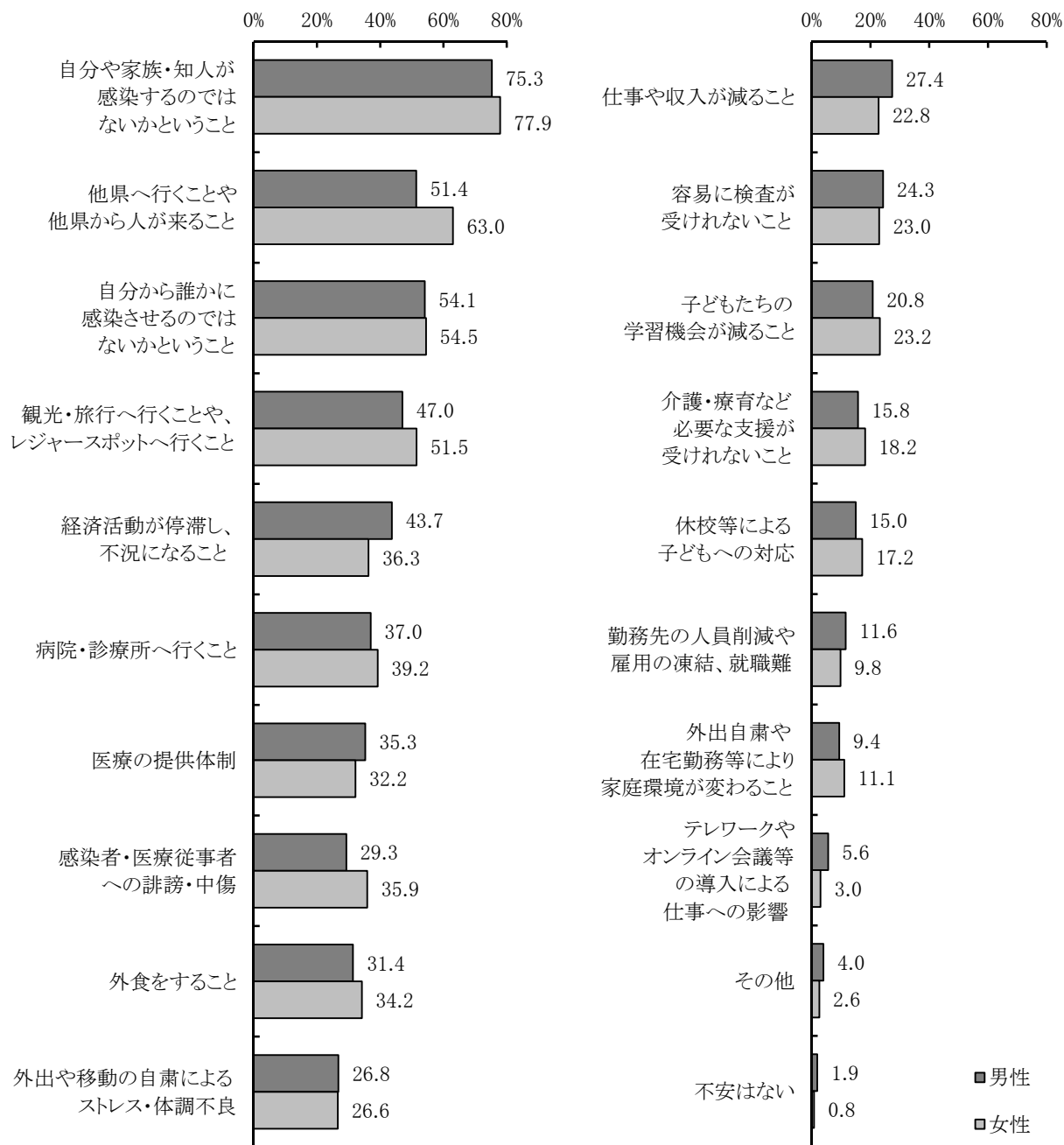


【性別】

性別にみると、男女共に「自分や家族・知人が感染するのではないかということ」と答えた人の割合が最も多く、女性（77.9%）の方が男性（75.3%）より2.6ポイント多くなっている。

また、「仕事や収入が減ること」と答えた人の割合は、男性（27.4%）の方が女性（22.8%）より4.6ポイント多くなっている。「他県へ行くことや他県から人が来ること」と答えた人の割合は、女性（63.0%）の方が男性（51.4%）より11.6ポイント多くなっている。

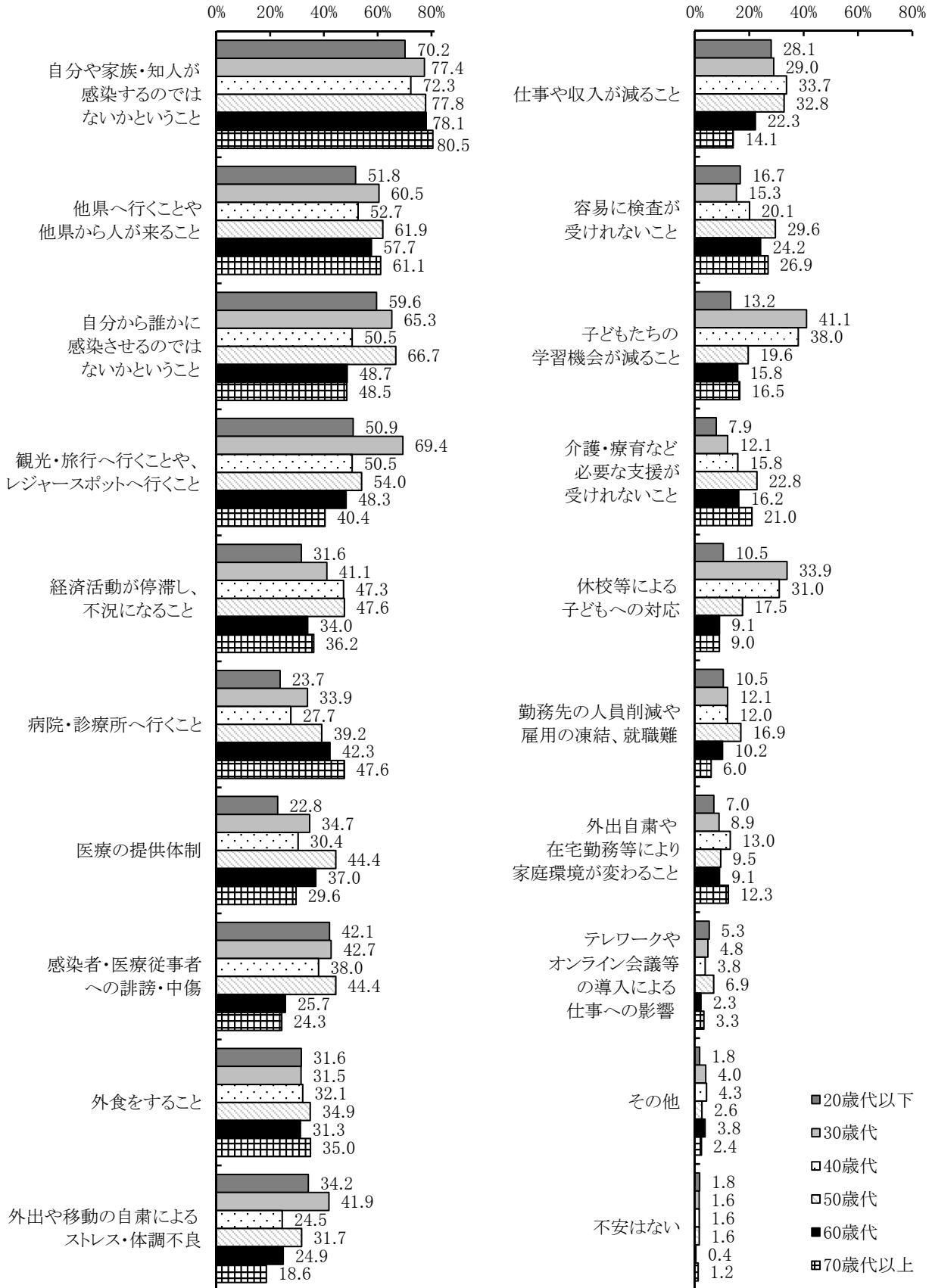
このほか、男性では「経済活動が停滞し、不況になること」と答えた人の割合が多く、女性では、「観光・旅行へ行くことや、レジャースポットへ行くこと」が多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「自分や家族・知人が感染するのではないかということ」と答えた人の割合が最も多くなっている。

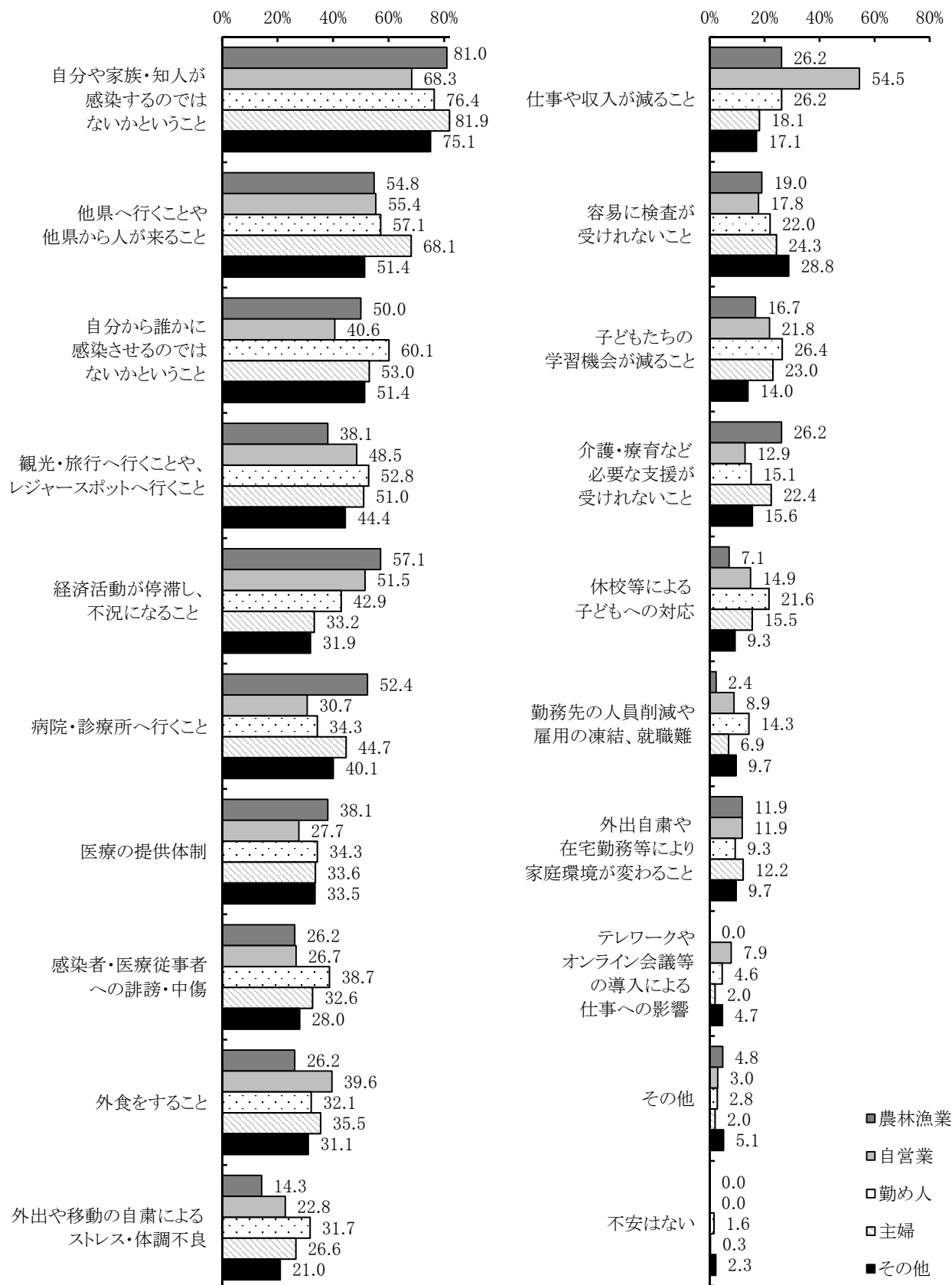
また、「病院・診療所へ行くこと」と答えた人の割合は、70歳代以上で特に多くなっている。30歳代では、「子どもたちの学習機会が減ること」及び「休校等による子どもへの対応」と答えた人の割合が、50歳代では、「医療の提供体制」及び「感染者・医療従事者への誹謗・中傷」が、他の年齢層と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職種で、「自分や家族・知人が感染するのではないかということ」と答えた人の割合が最も多くなっている。全ての職種で、「他県へ行くことや他県から人が来ること」と答えた人の割合は、5割を超えており、主婦では68.1%と特に多くなっている。

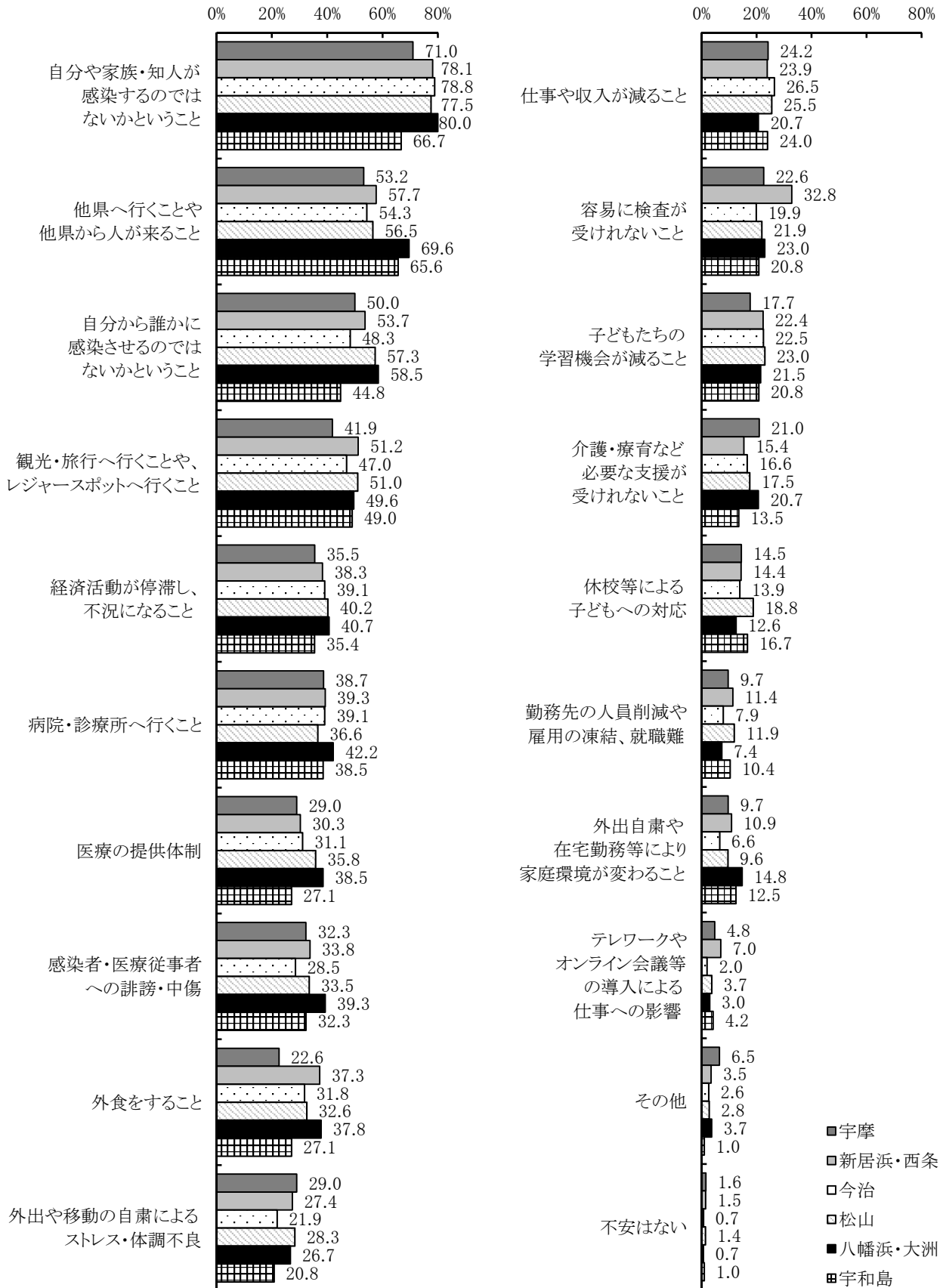
また、「病院・診療所へ行くこと」と答えた人の割合は、農林漁業で5割を超えている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「自分や家族・知人が感染するのではないかということ」と答えた人の割合が最も多くなっている。次いで、松山圏域を除く全ての圏域で、「他県へ行くことや他県から人が来ること」と答えた人の割合が多く、松山圏域では「自分から誰かに感染させるのではないかということ」が多くなっている。

また、新居浜・西条圏域では、「容易に検査が受けられないこと」が他の圏域と比較して多くなっている。

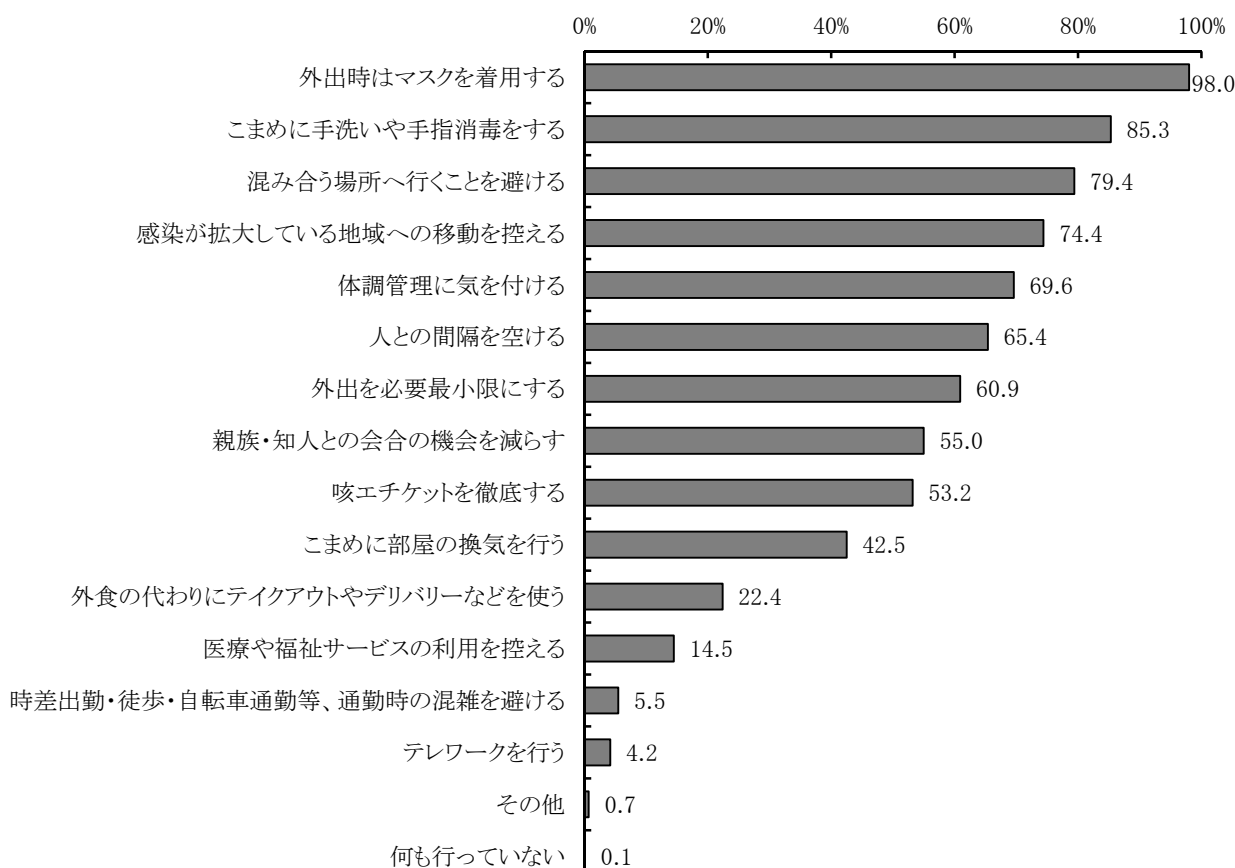


問 38 新型コロナウイルス感染症による日常の変化

あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により、日常生活でどのような行動の変化がありますか。次の中から当てはまるものを全て選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 体調管理に気を付ける		69.6
2 外出時はマスクを着用する		98.0
3 咳エチケットを徹底する		53.2
4 人との間隔を空ける		65.4
5 こまめに手洗いや手指消毒をする		85.3
6 こまめに部屋の換気を行う		42.5
7 外出を必要最小限にする		60.9
8 外食の代わりにテイクアウトやデリバリーなどを使う		22.4
9 混み合う場所へ行くことを避ける		79.4
10 感染が拡大している地域への移動を控える		74.4
11 親族・知人との会合の機会を減らす		55.0
12 医療や福祉サービスの利用を控える		14.5
13 テレワークを行う		4.2
14 時差出勤・徒歩・自転車通勤等、通勤時の混雑を避ける		5.5
15 その他		0.7
16 何も行っていない		0.1

新型コロナウイルス感染症の影響により、日常生活でどのような行動の変化があったか聞いたところ、「外出時はマスクを着用する」と答えた人の割合が98.0%で最も多く、以下「こまめに手洗いや手指消毒をする」(85.3%)、「混み合う場所へ行くことを避ける」(79.4%)、「感染が拡大している地域への移動を控える」(74.4%)などの順となっている。

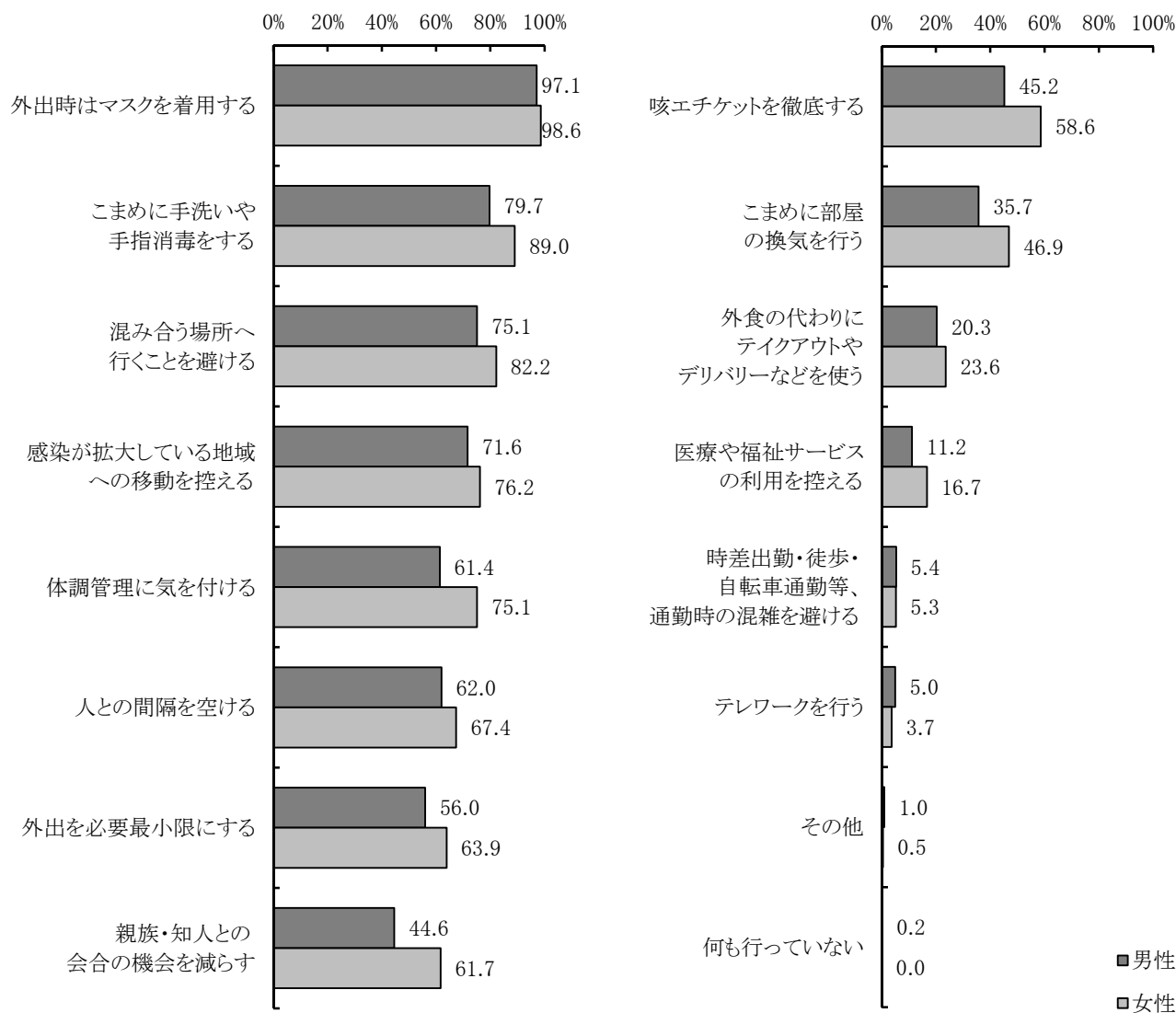


【性別】

性別にみると、男女共に「外出時はマスクを着用する」と答えた人の割合が最も多くなっている。（男性 97.1%、女性 98.6%）

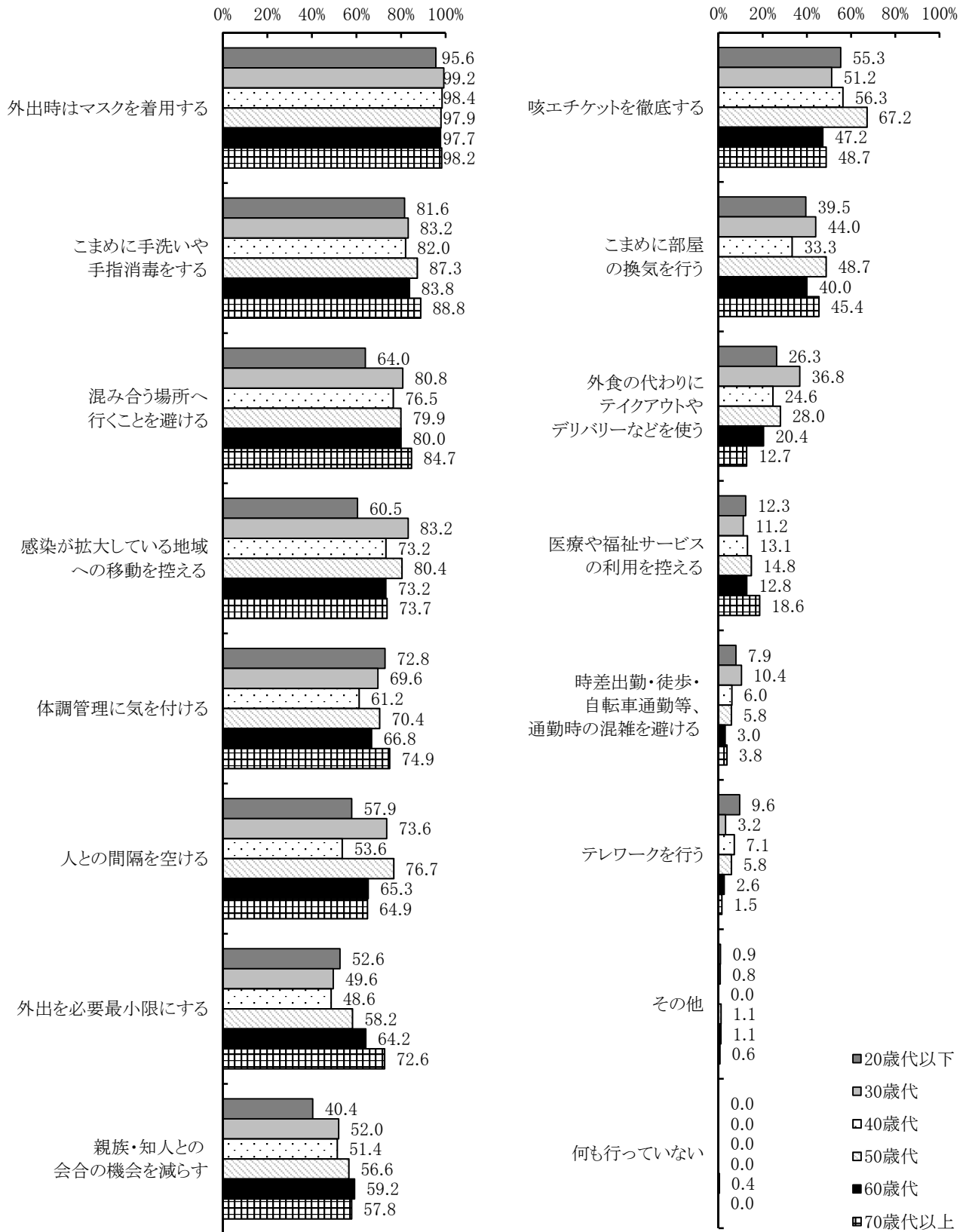
また、「親族・知人との会合の機会を減らす」と答えた人の割合は、女性(61.7%)の方が男性(44.6%)より 17.1 ポイント多くなっている。「体調管理に気を付ける」、「咳エチケットを徹底する」及び「こまめに部屋の換気を行う」と答えた人の割合も、女性の方が多くなっている。

一方、「時差出勤・徒歩・自転車通勤等、通勤時の混雑を避ける」、「テレワークを行う」と答えた人の割合は、男性の方が多くなっている。



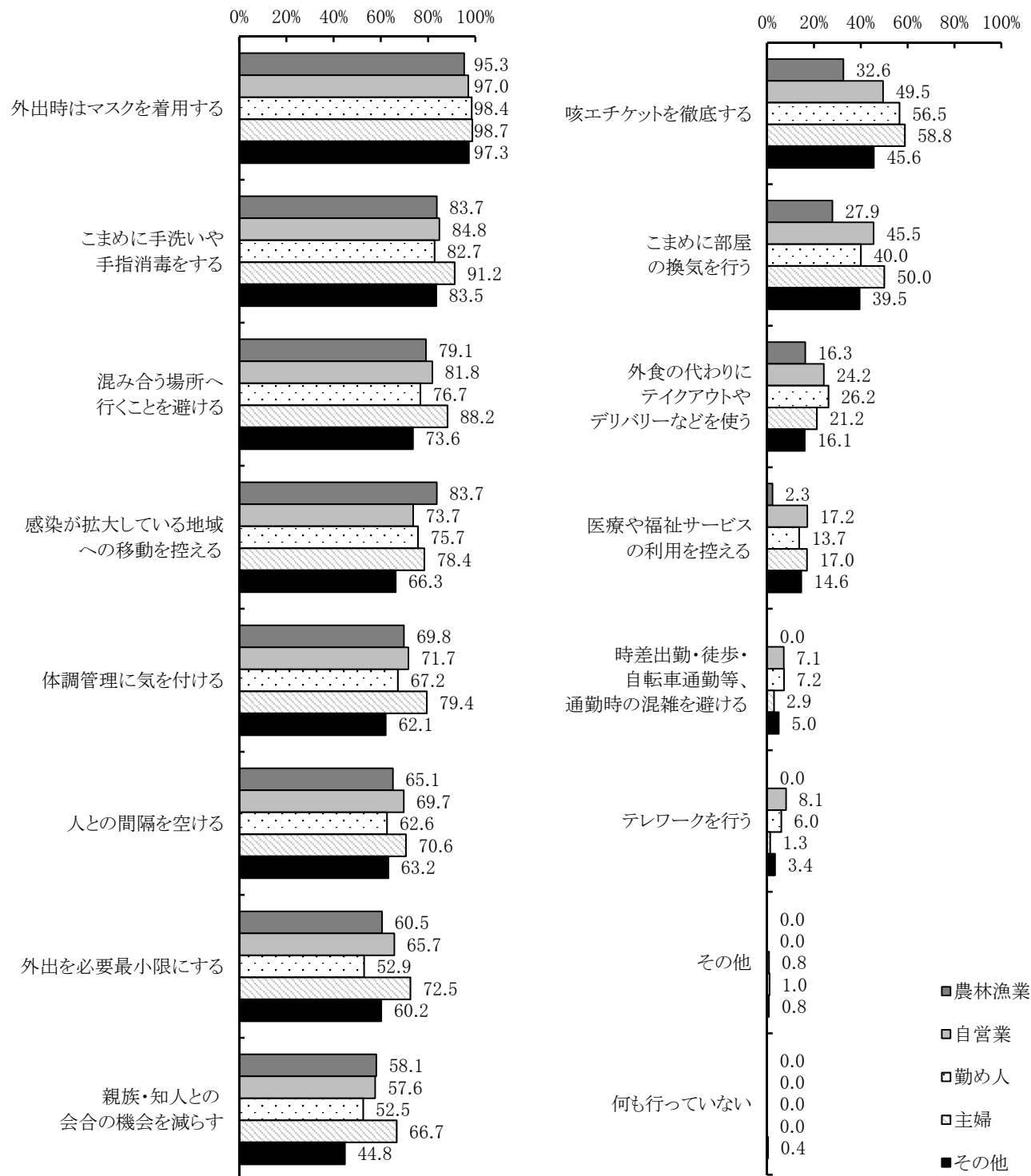
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「外出時はマスクを着用する」と答えた人の割合が最も多く、9割を超え、「こまめに手洗いや手指消毒をする」は、8割を超えている。



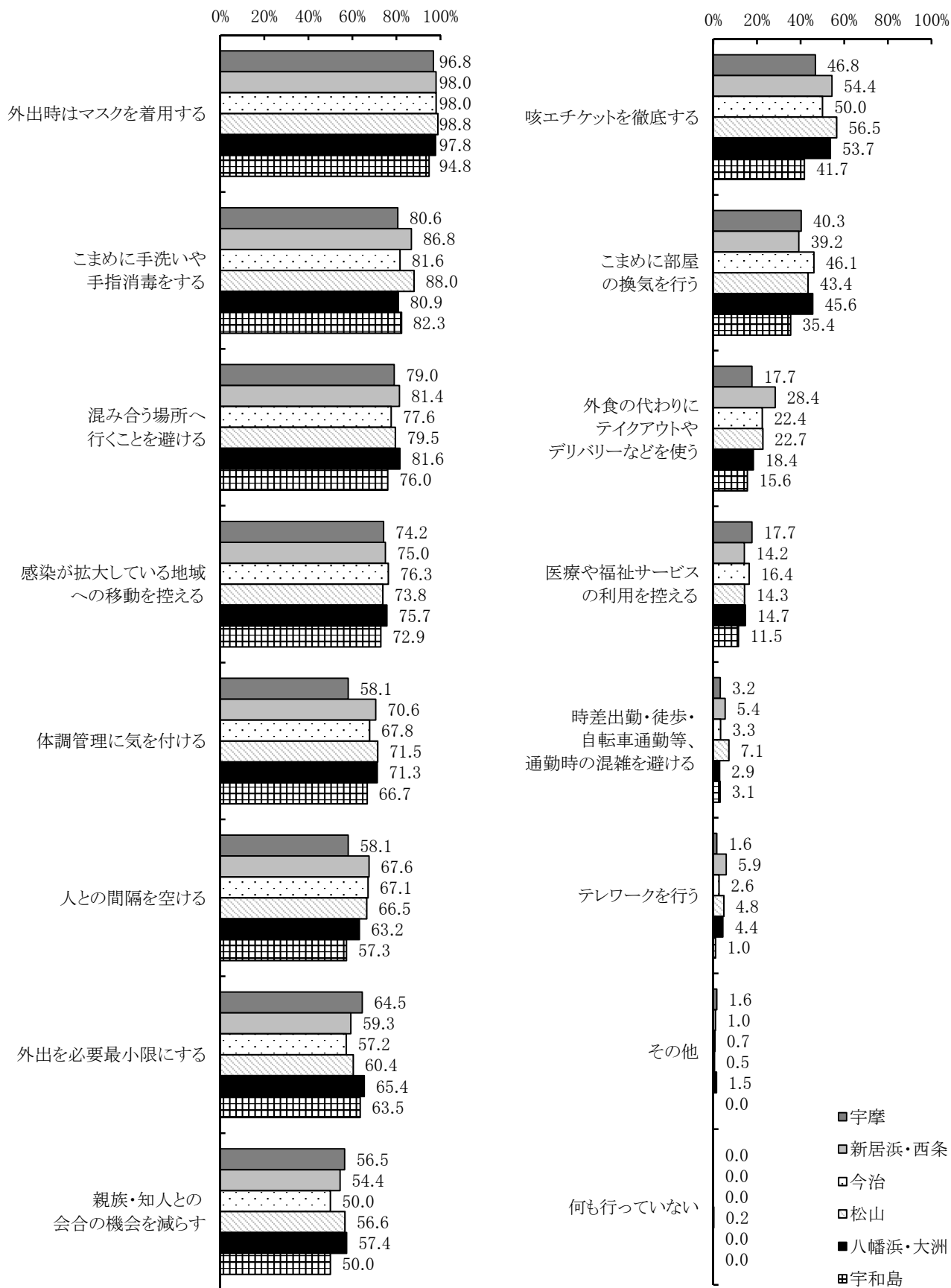
【職業別】

職業別にみると、全ての職種で、「外出時はマスクを着用する」と答えた人の割合が9割を超え、最も多くなっている。「こまめに手洗いや手指消毒をする」と答えた人の割合は、主婦で91.2%と他の職種と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「外出時はマスクを着用する」と答えた人の割合が最も多く、9割を超え、「こまめに手洗いや手指消毒をする」と答えた人の割合は、8割を超えている。

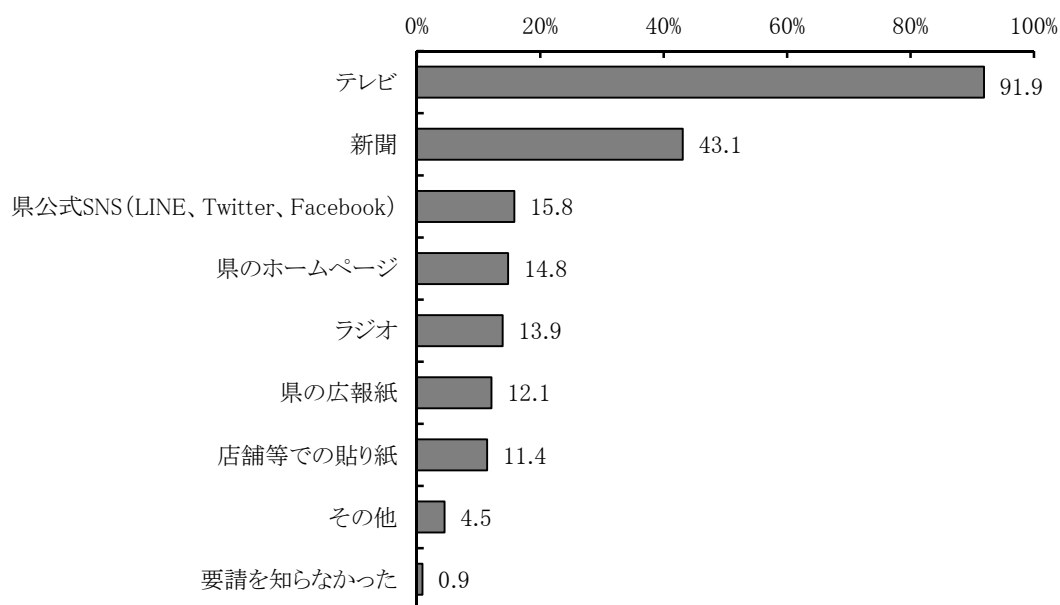


問 39 新型コロナウイルス感染症対策の情報入手先

県では、県民の皆さまや事業者の方々に対して、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、不要不急の外出自粛や休業等の要請を行っておりますが、あなたは、どのような媒体で情報を入手しましたか。次の中から当てはまるものを全て選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 テレビ		91.9
2 ラジオ		13.9
3 新聞		43.1
4 県のホームページ		14.8
5 県の広報紙		12.1
6 県公式 SNS (LINE、Twitter、Facebook)		15.8
7 店舗等での貼り紙		11.4
8 その他		4.5
9 要請を知らなかった		0.9

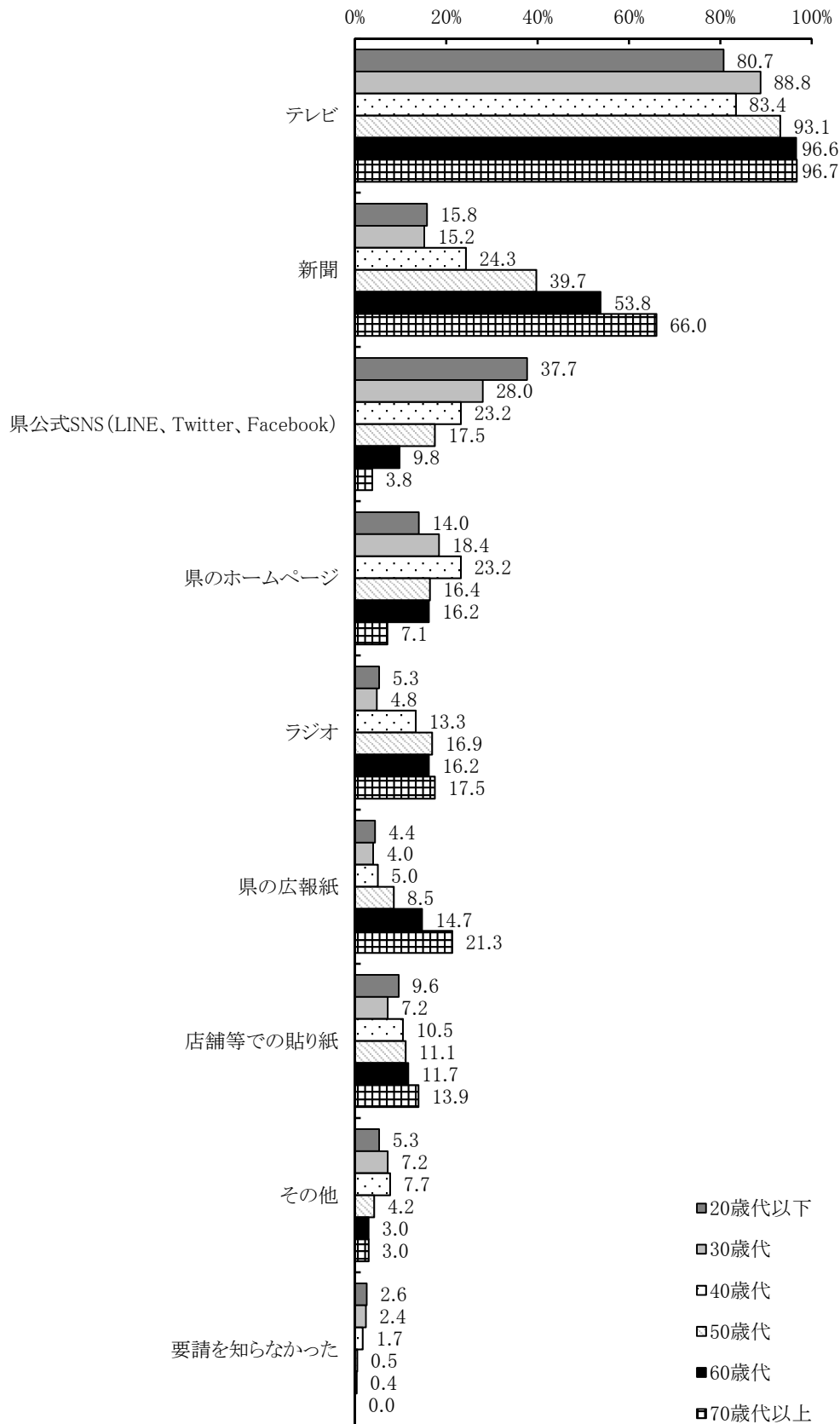
新型コロナウイルス感染症対策の情報入手先について聞いたところ、「テレビ」と答えた人の割合が91.9%で最も多く、以下「新聞」(43.1%)、「県公式SNS (LINE、Twitter、Facebook)」(15.8%)などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「テレビ」と答えた人の割合が最も多くなっている。

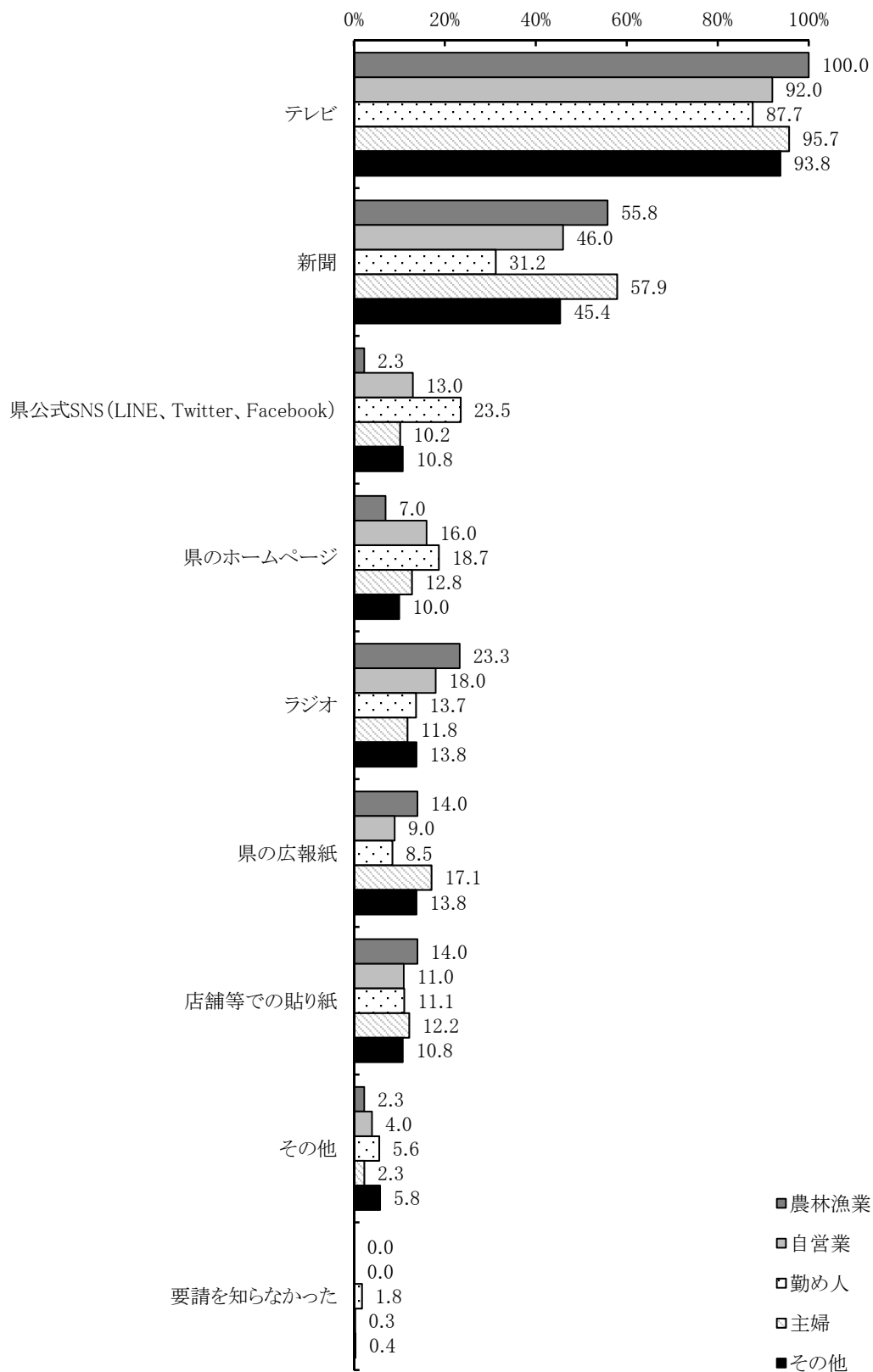
また、「新聞」と答えた人の割合は、概ね年齢層が高くなるほど割合が多くなる傾向にあり、70歳代以上では66.0%となっている。「県公式SNS (LINE、Twitter、Facebook)」と答えた人の割合は、年齢層が低いほど多くなっており、20歳代以下で37.7%と最も多く、30歳代では28.0%、40歳代では23.2%となっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職種で、「テレビ」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業では100.0%であり、自営業、主婦及びその他では9割を超え、勤め人では8割を超えている。

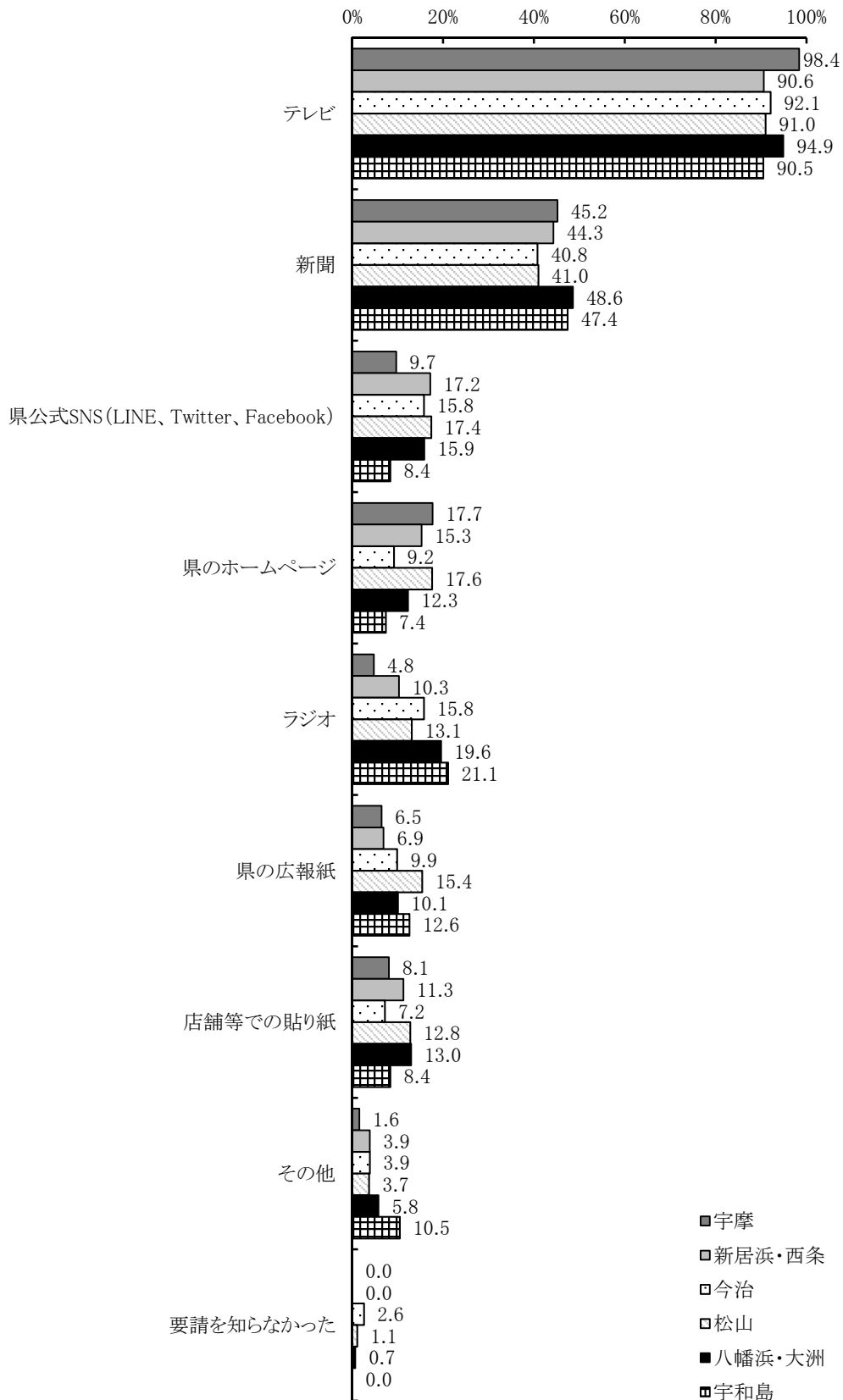
また、「新聞」と答えた人の割合は、主婦（57.9%）及び農林漁業（55.8%）が他の職種と比較して多くなっている。「県公式SNS（LINE、Twitter、Facebook）」と答えた人の割合は、勤め人が他の職種と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「テレビ」と答えた人の割合が9割を超え最も多く、「新聞」と答えた人の割合は、4割台となっている。

また、宇和島圏域では、「県公式SNS（LINE、Twitter、Facebook）」及び「県のホームページ」と答えた人の割合が他の圏域と比較して少なくなっているが、「ラジオ」は他の圏域と比較して多くなっている。



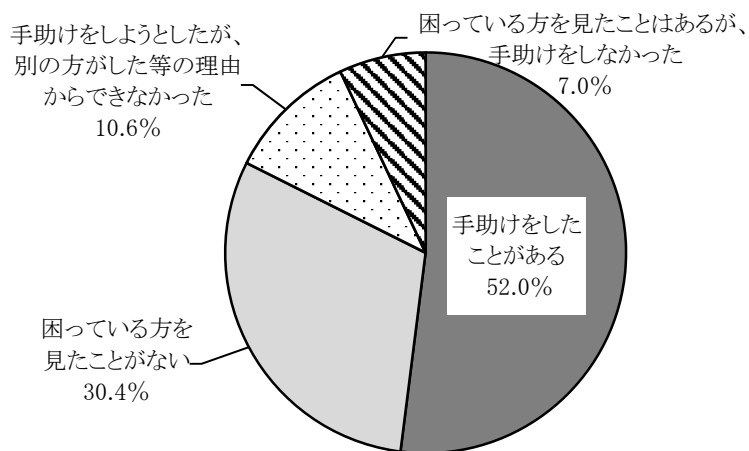
障がい理由とする差別

問 40 障がいのある人への手助け

あなたは、障がいのある人が困っているときに、手助けをしたことはありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 手助けをしたことがある	52.0
2 手助けをしようとしたが、別の方がした等の理由からできなかった	10.6
3 困っている方を見たことはあるが、手助けをしなかった	7.0
4 困っている方を見たことがない	30.4

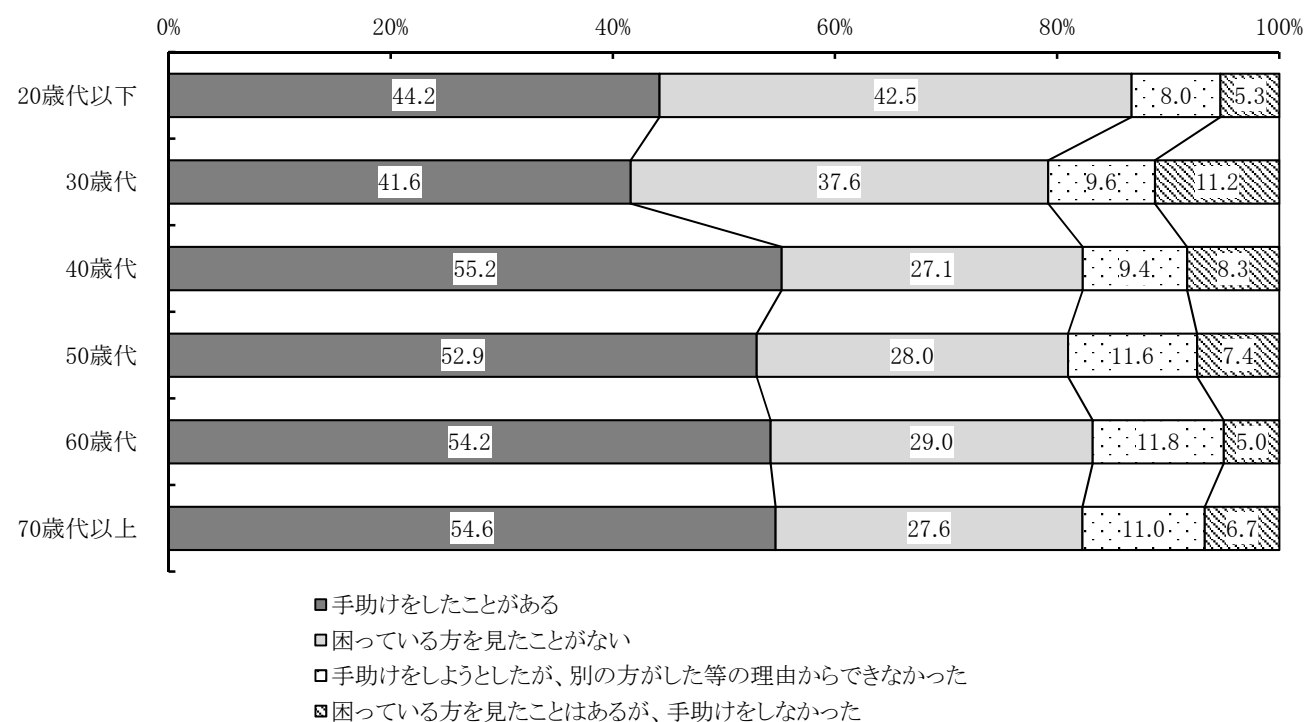
障がいのある人が困っているときに、手助けをしたことがあるか聞いたところ、「手助けをしたことがある」と答えた人の割合が52.0%で最も多く、以下「困っている方を見たことがない」(30.4%)、「手助けをしようとしたが、別の方がした等の理由からできなかった」(10.6%)、「困っている方を見たことはあるが、手助けをしなかった」(7.0%)の順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「手助けをしたことがある」と答えた人の割合が最も多く、30歳代以下を除く全ての年齢層で5割を超えている。

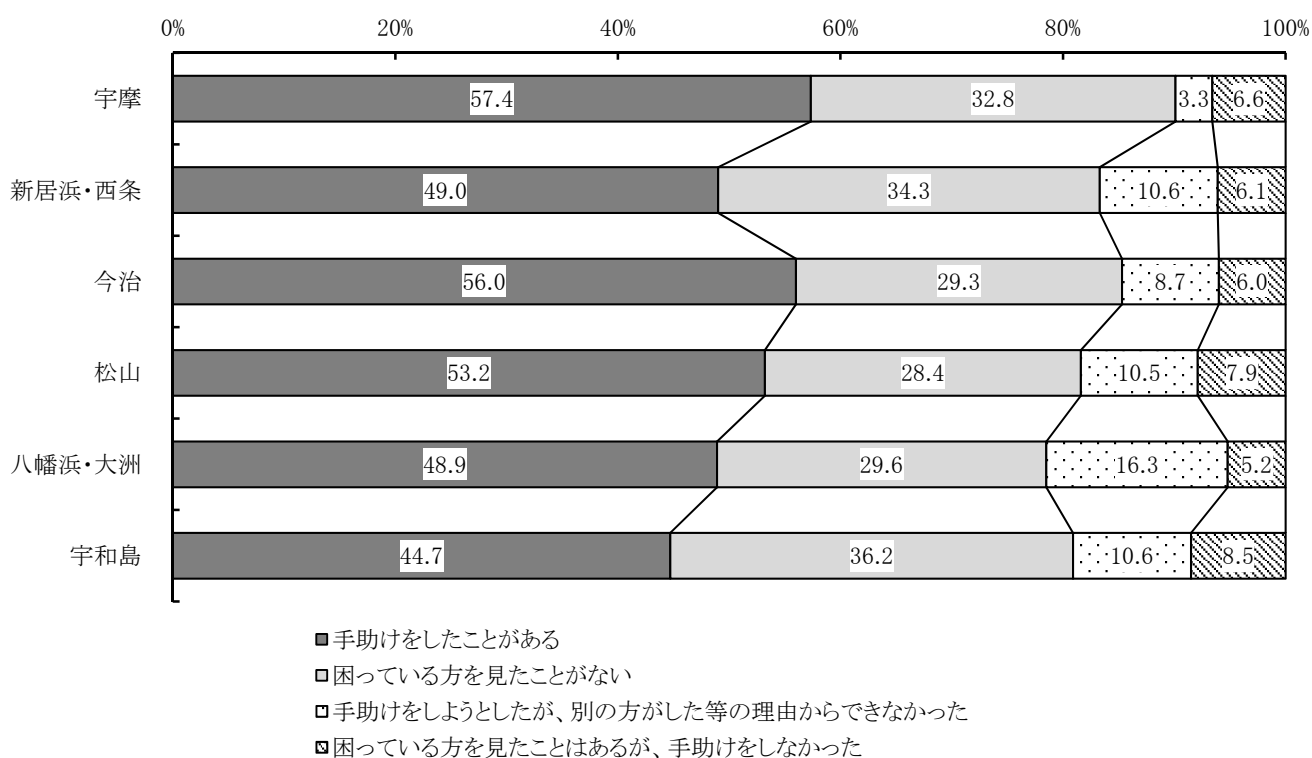
また、30歳代では、「困っている方を見たことはあるが、手助けをしなかった」が他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「手助けをしたことがある」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域では、57.4%と特に多くなっている。

また、八幡浜・大洲圏域では「手助けをしようとしたが、別の方がした等の理由からできなかった」が多くなっている。

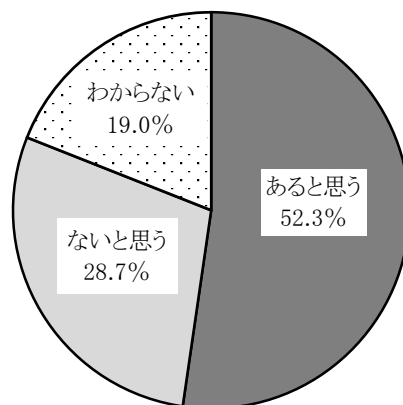


問 40-1 障がいのある人への差別や偏見の有無

あなたは、障がいのある人に対する障がいを理由とする差別や偏見はあると思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

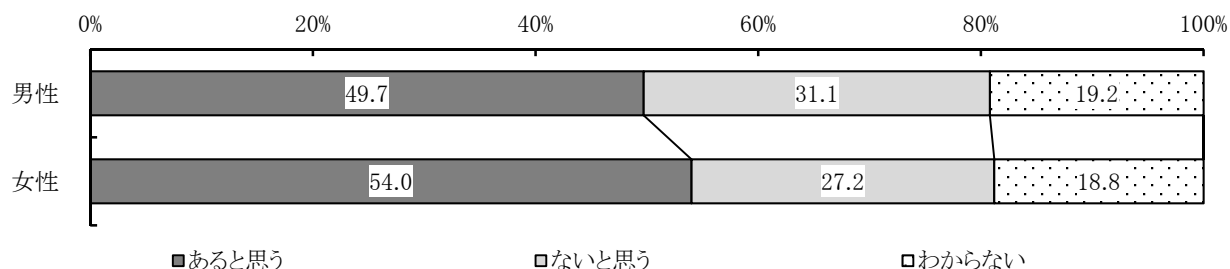
	(%)
1 あると思う	52.3
2 ないと思う	28.7
3 わからない	19.0

障がいのある人に対する障がいを理由とする差別や偏見があるか聞いたところ、「あると思う」と答えた人の割合が52.3%で最も多く、以下「ないと思う」(28.7%)、「わからない」(19.0%)の順となっている。



【性別】

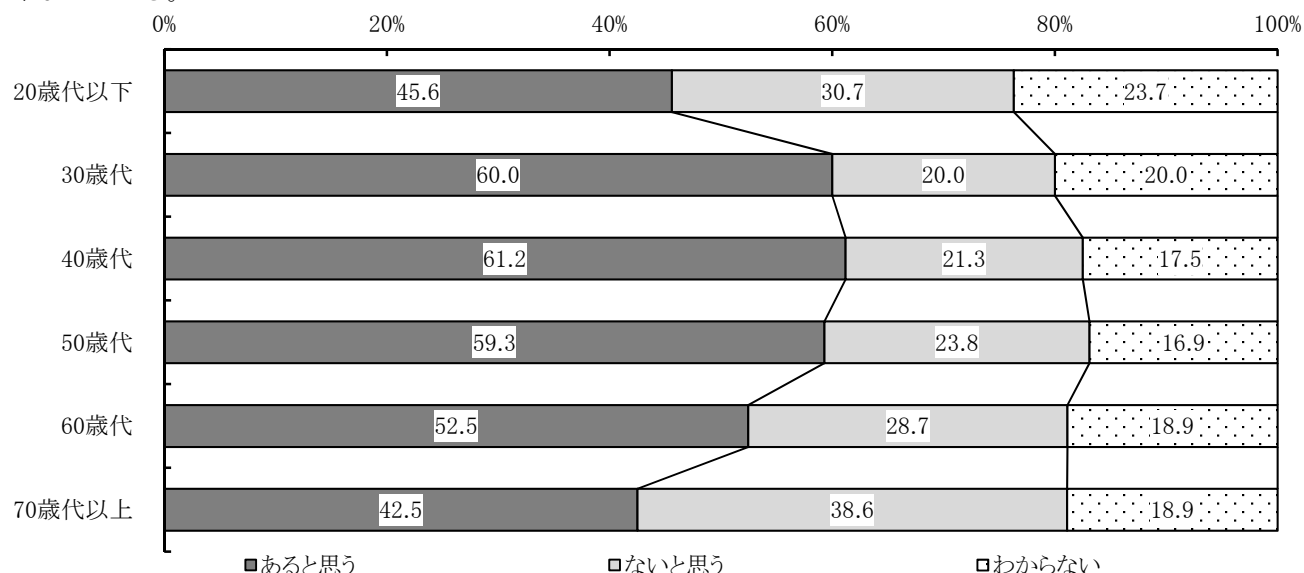
性別にみると、男女共に「あると思う」と答えた人の割合が最も多く、女性(54.0%)の方が男性(49.7%)より4.3ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「あると思う」と答えた人の割合が最も多く、30歳代(60.0%)、40歳代(61.2%)及び50歳代(59.3%)が特に多くなっている。

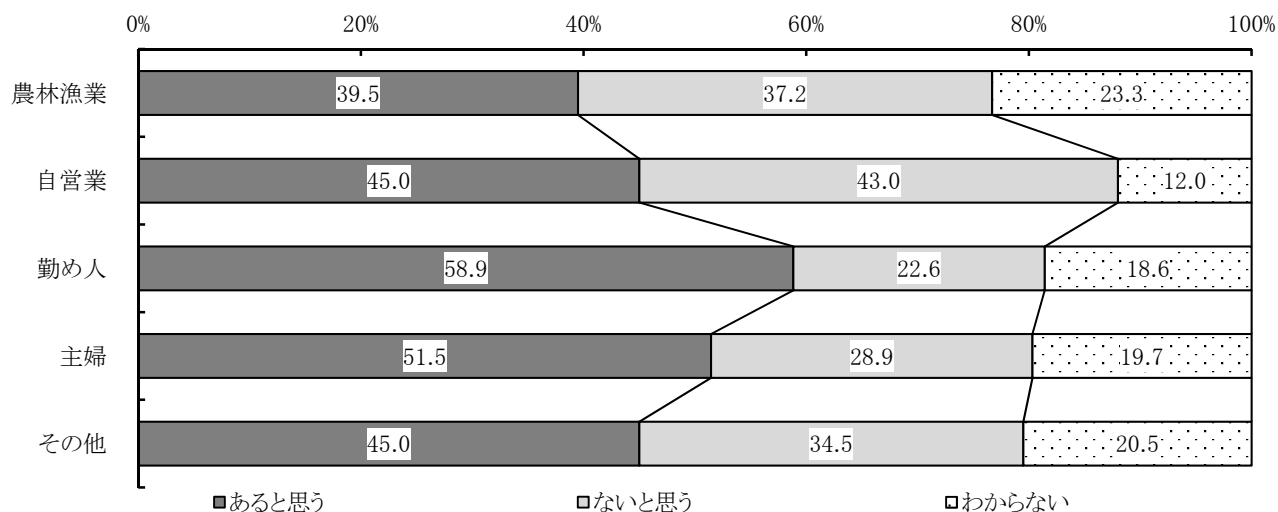
また、「ないと思う」と答えた人の割合は、70歳代以上で38.6%と最も多く、20歳代以下も30.7%と多くなっている。



【職業別】

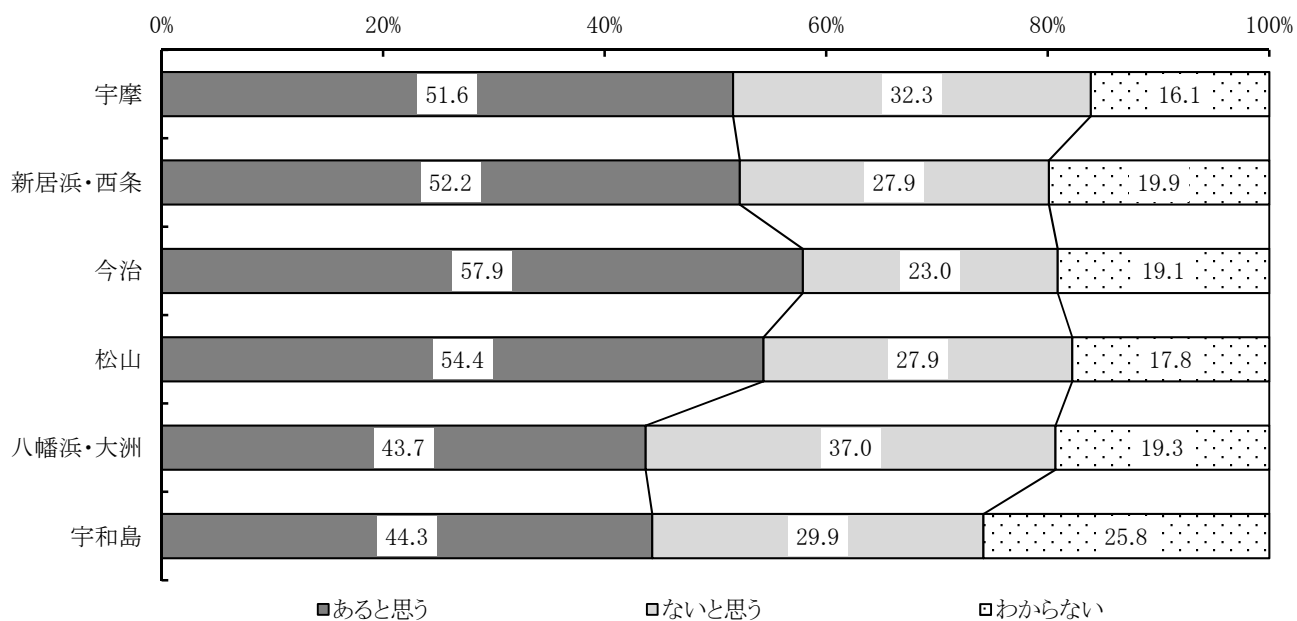
職業別にみると、全ての職種で、「あると思う」と答えた人の割合が最も多く、勤め人(58.9%)及び主婦(51.5%)では5割を超えている。

また、自営業では、「ないと思う」と答えた人の割合が他の職種と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「あると思う」と答えた人の割合が最も多く、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で5割を超えている。

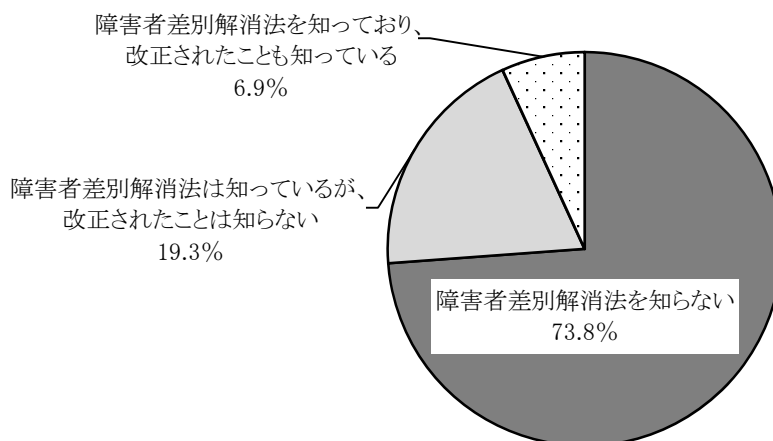


問 40-2 障害者差別解消法の認知度

障がいを理由とする差別の解消の一層の推進を図るため、令和3年6月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（以下、「障害者差別解消法」という）」が改正されましたが、ご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 障害者差別解消法を知っており、改正されたことも知っている	6.9
2 障害者差別解消法は知っているが、改正されたことは知らない	19.3
3 障害者差別解消法を知らない	73.8

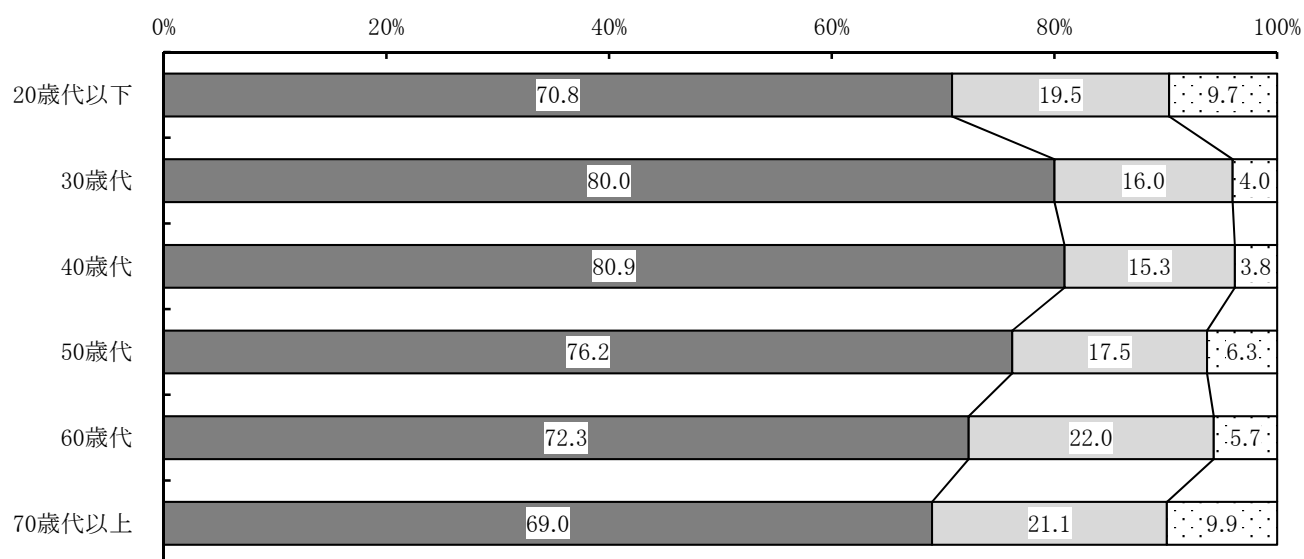
「障害者差別解消法」について知っているか聞いたところ、「障害者差別解消法を知らない」と答えた人の割合が73.8%で最も多く、以下「障害者差別解消法は知っているが、改正されたことは知らない」(19.3%)、「障害者差別解消法を知っており、改正されたことも知っている」(6.9%)の順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「障害者差別解消法を知らない」と答えた人の割合が最も多く、30歳代及び40歳代では8割を超えている。

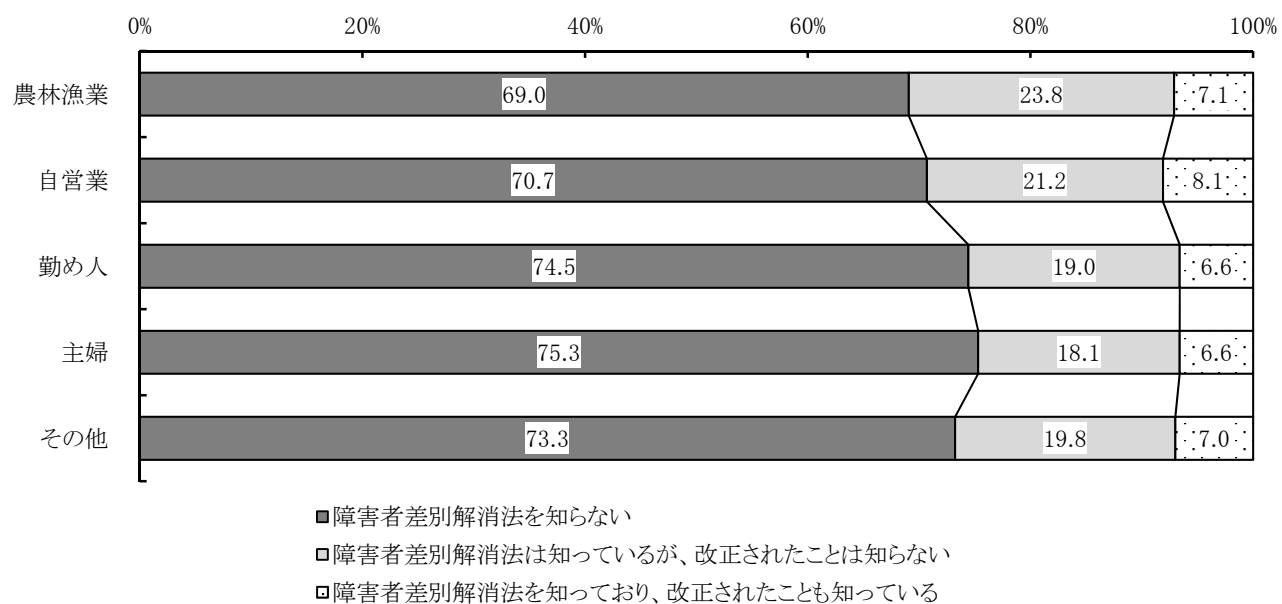
また、70歳代以上及び20歳代以下では「障害者差別解消法を知っており、改正されたことも知っている」と答えた人の割合が、他の年齢層と比較して多くなっている。



- 障害者差別解消法を知らない
- 障害者差別解消法は知っているが、改正されたことは知らない
- ▨ 障害者差別解消法を知っており、改正されたことも知っている

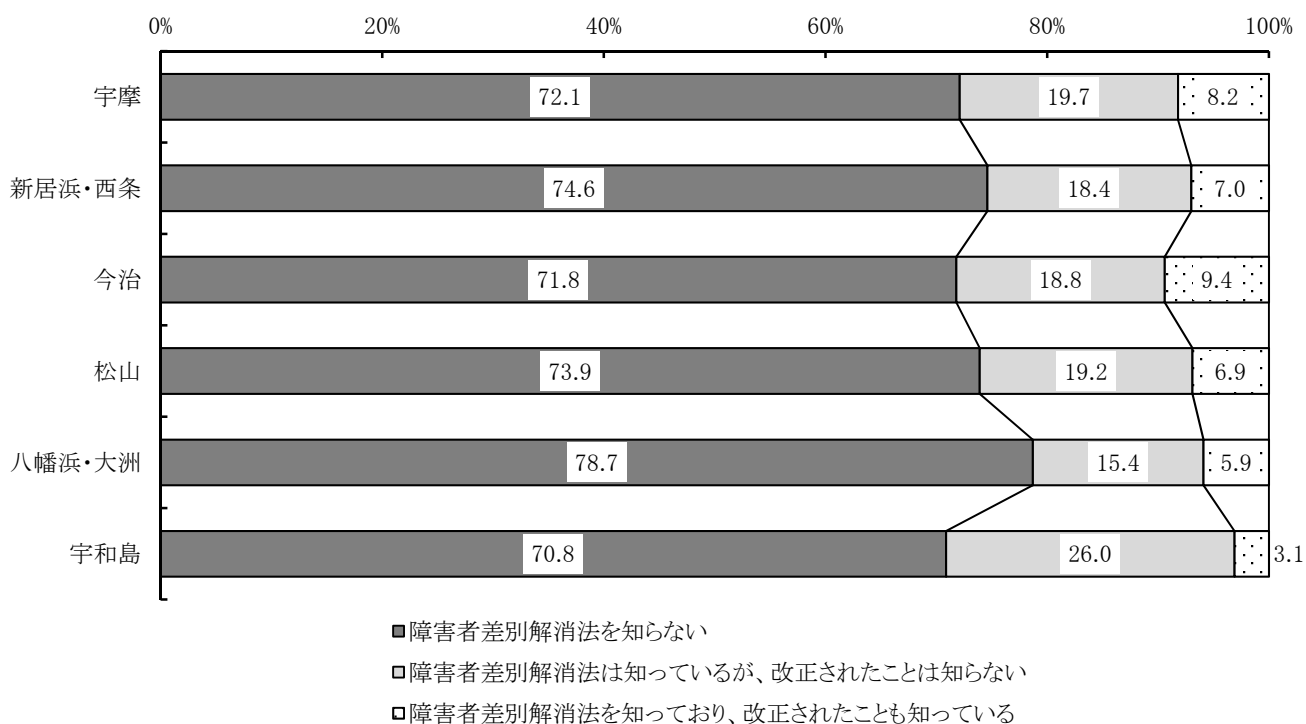
【職業別】

職業別にみると、全ての職種で、「障害者差別解消法を知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「障害者差別解消法を知らない」と答えた人の割合が最も多く、7割を超えている。



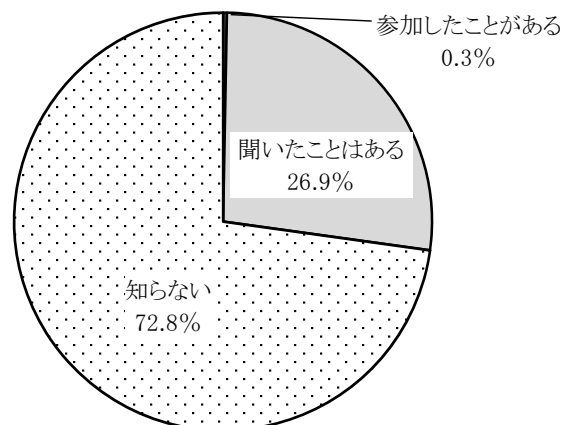
ねんりんピック愛顔のえひめ2023

問41 ねんりんピックの認知度

あなたは、高齢者の福祉の祭典であるねんりんピック（全国健康福祉祭）について、ご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

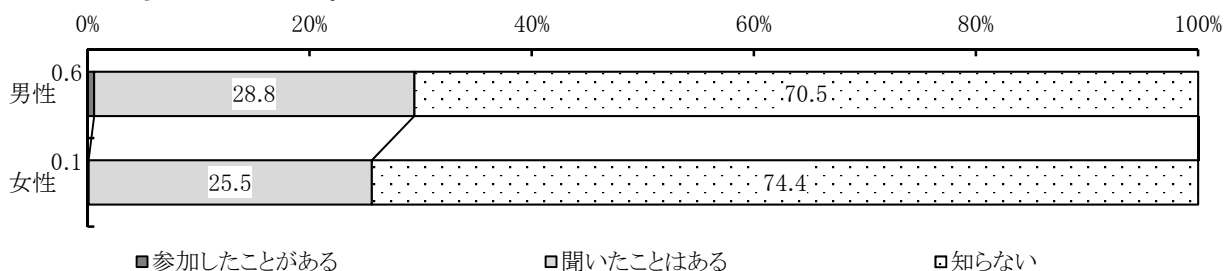
	(%)
1 参加したことがある	0.3
2 聞いたことはある	26.9
3 知らない	72.8

ねんりんピック（全国健康福祉祭）について聞いたところ、「知らない」と答えた人の割合が72.8%で最も多く、以下「聞いたことはある」（26.9%）、「参加したことがある」（0.3%）の順となっている。



【性別】

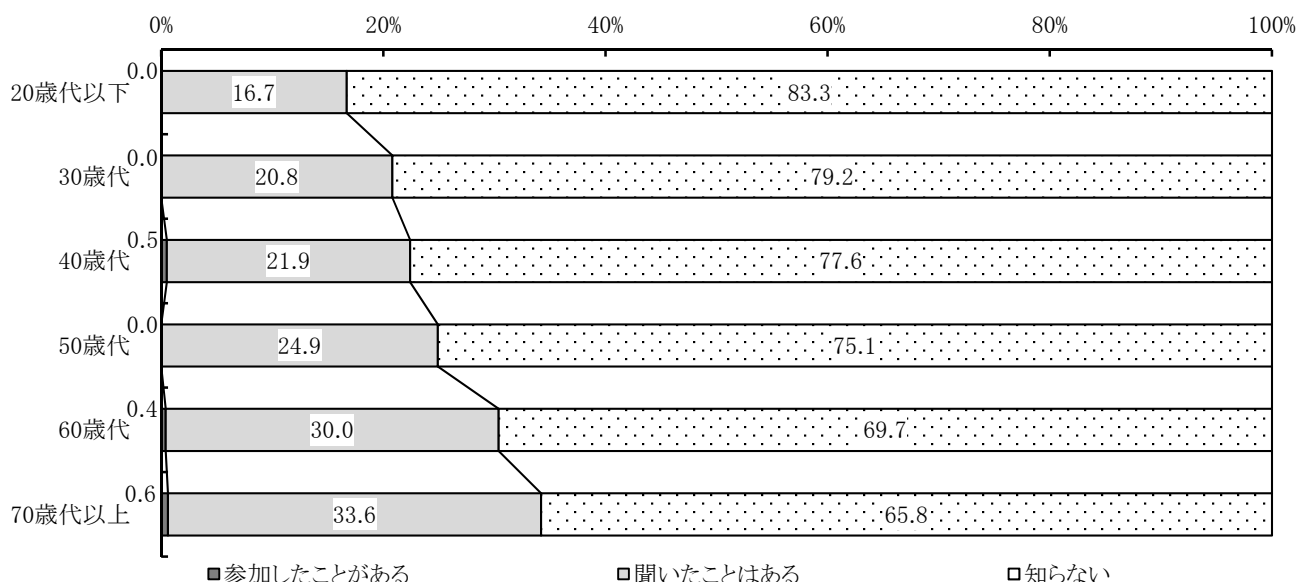
性別にみると、男女共に「知らない」と答えた人の割合が最も多く、女性(74.4%)の方が男性(70.5%)より3.9ポイント多くなっている。



【年齢別】

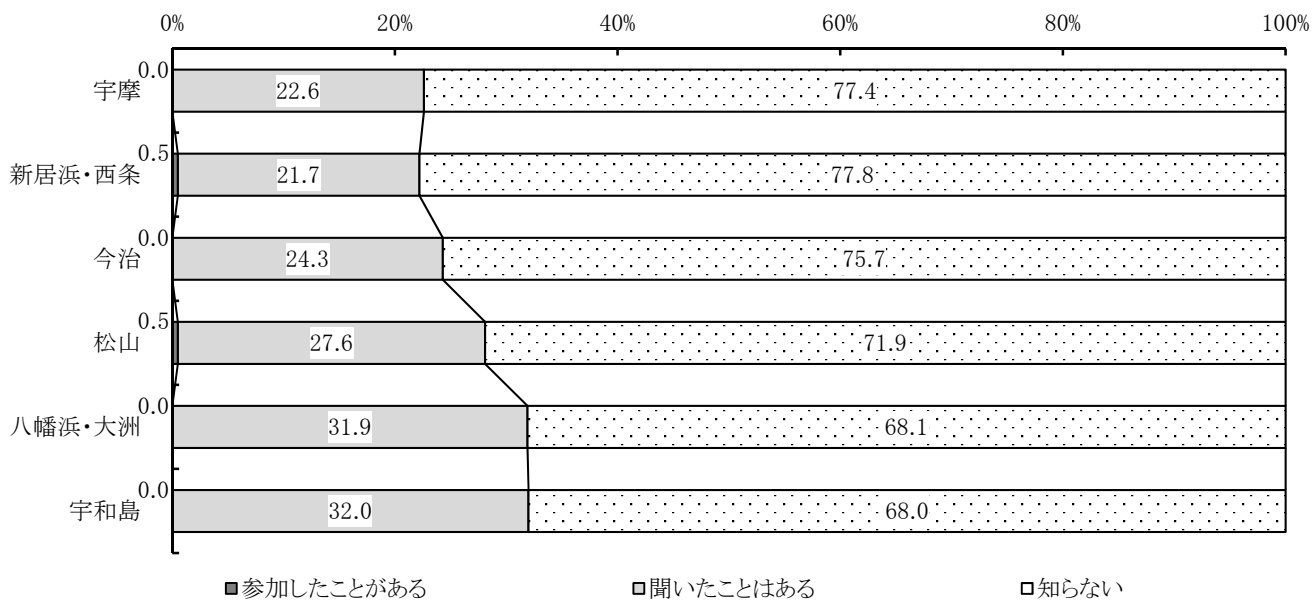
年齢別にみると、全ての年齢層で、「知らない」と答えた人の割合が最も多く、年齢層が低くなるほど割合が多くなっており、20歳代以下では83.3%となっている。

また、「聞いたことはある」と答えた人の割合は、年齢層が高くなるほど、割合が多くなる傾向にあり、70歳代以上で33.6%となっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「知らない」と答えた人の割合が最も多く、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で7割を超えている。

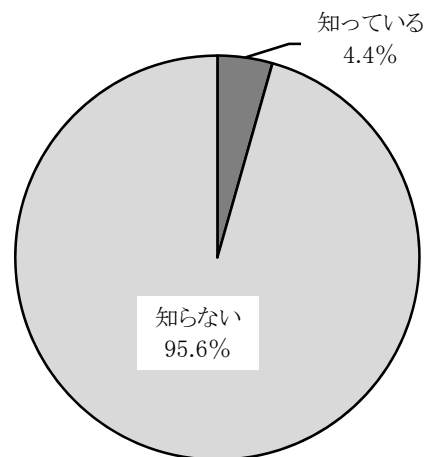


問 41-1 ねんりんピック開催の認知度

あなたは、ねんりんピックが令和5年に本県で開催されることをご存じですか。
次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

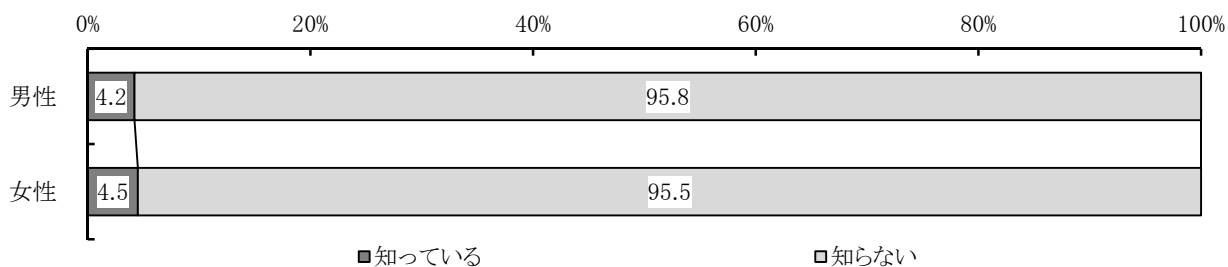
	(%)
1 知っている	4.4
2 知らない	95.6

ねんりんピックが令和5年に本県で開催されることについて聞いたところ、「知らない」と答えた人の割合は95.6%で、「知っている」は4.4%となっている。



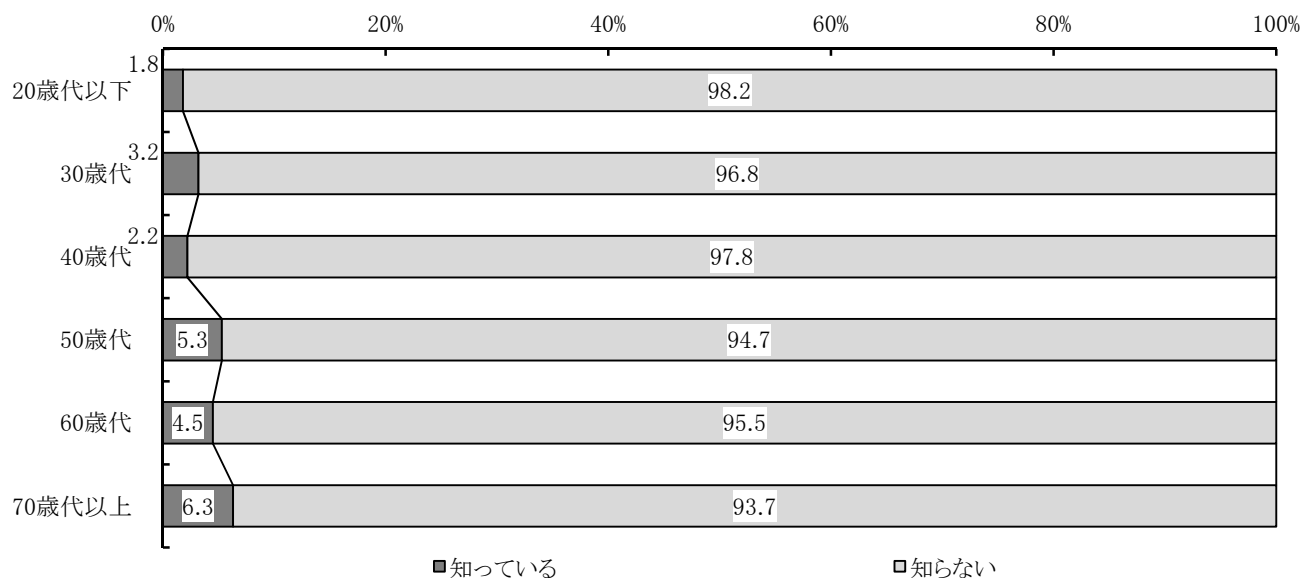
【性別】

性別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、女性(4.5%)の方が、男性(4.2%)より0.3ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で、「知っている」と答えた人の割合は、1割未満となっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で、「知っている」と答えた人の割合は、1割未満となっている。

